福井県内科医会学術講演会　2024 年 12 月 7 日
『漢方薬の利水剤を活用した高齢者心不全管理』
獨協医科大学　内科学（心臓・血管）　主任教授　豊田　茂　先生

心不全は，高齢化社会の進展とともに増加しており，患者の QOL を著しく低下させるだけでなく，医療経済にも大きな負担をもたらしています．特に高齢者心不全では，複数の合併症を抱える患者が多く，身体活動能力が低下していることが一般的です．そのため，個々の患者の状態に応じた柔軟な治療戦略が求められます．そこで，従来の西洋医学的治療に加え，漢方薬の持つ特性を活用することで，高齢者心不全管理に新たな選択肢が提供される可能性があります．本講演では，漢方薬の利水剤である五苓散に焦点を当て，高齢者心不全管理への応用についてご講演いただきました．

五苓散は，古くから水分代謝の調整薬として使用されてきた漢方薬であり，水の分布調節作用のある蒼朮（ｿｳｼﾞｭﾂ），沢瀉（ﾀｸｼｬ），茯苓（ﾌﾞｸﾘｮｳ），猪苓（ﾁｮﾚｲ）と理気作用のある桂皮からなる生薬であり，水毒（水の偏在）を改善する効果が報告されています．甘草を含有していないのも大きなポイントです．特に心不全患者においては，浮腫がうっ血性心不全の主要な症状の一つであり，利尿薬の使用が不可欠です．しかし，西洋医学の利尿薬であるフロセミドやトルバプタンに対して反応性が乏しい，いわゆるトルバプタンノンレスポンダーの存在が課題となっています．こうした患者に対し，五苓散を補助的に使用することで，利尿効果を補完し，全身の水分バランスを整えることが期待されています．

五苓散の作用機序として，腎集合管でのアクアポリン発現量の調整が挙げられます．アクアポリンは水の再吸収を制御する重要なタンパク質であり，その適切な調整は水分代謝を正常化させる鍵となります．この作用により，五苓散は西洋医学の利尿薬と異なるメカニズムで浮腫の改善を図ることが可能です．また，五苓散は単に浮腫を解消するだけでなく，腸管浮腫や腸内細菌叢のバランス改善にも効果を示す可能性があります．これにより，心腸連関を介して炎症性物質の抑制や栄養状態の改善が期待されます．特に高齢者心不全患者では，このような全身的な調整作用が QOL 向上に大きく寄与すると考えられます．さらに，五苓散を西洋医学の利尿薬と併用することで，利尿薬使用量を抑え，腎臓への副作用リスクを軽減する可能性も示唆されています．特にフロセミドやトルバプタンの長期使用では腎機能の悪化が懸念される中，五苓散の併用により腎保護作用を期待できる点は重要です．このような統合的治療戦略は，高齢者心不全患者の長期予後改善にもつながる可能性があります．本講演では，従来の利尿薬では十分な効果が得られなかった患者において，五苓散が浮腫の軽減や体重減少をもたらし，心不全症状の緩和に寄与した症例の紹介がありました．今後，心不全管理において漢方薬を活用することは，高齢化社会の医療の質を向上させる重要なステップとなること，そして漢方薬は単なる補助療法ではなく，西洋医学と上手に融合することで，患者の多様なニーズに応える新たな治療の柱となる可能性があることをわかりやすくご講演いただきました．

（福井大学医学部 循環器内科学　夛田　浩）